



鈴木隆 議員

質問①

生活支援事業の「生活支援体制整備事業」について

① 高齢者が多く住み続けている公営住宅の施設の維持・管理（施設内の除雪・草刈り等）が難しくなってきたという現状です。町はどのようにしてこの課題について検討していますか。その対策について聞きます。

答 公営住宅の施設の維持管理、草刈りや除雪など住宅の環境維持につきましては、原則は入居者の方たちが協力し合って維持管理に努めていただきたいと思います。

問 ② 町内にも高齢人口が増え、自宅敷地の草刈り、冬の除雪等、物価高騰のこともあり、経済的理由で業者に頼みたくても頼めないでいる町民がいることに対しての行政と

しての対応を聞きます。

答 物価高騰につきましては、国の制度による給付金の給付をしており、町では「アポイクーポン」のような、様々な目的のために使える券を、町民全体、あるいは非課税世帯に交付してきたところです。

問 ③ 草刈り・除雪等の担い手不足などのボランティア活動につながるような記述もあるが具体的にどのようなことですか。

答 住民同士とりわけ高齢者がお互いに支えあうことで、担い手の介護予防にもつながるというところで呼び掛けているものであり、草刈りや除雪については重労働でボランティアの範囲を超えるのではと、感じているところです。

質問②

類似町地球温暖化対策実行計画について

問 ① 今年度からスタートで、その期間は令和12年度までの6年間となっています。これに関する今年度予算にはほとんど、反映されていません。

その原因は何ですか。

答 消防庁舎新築にあたっての木質バイオマスボイラーの導入や、LED整備に関しては、保健福祉センターきらくの大規模改修工事における電気設備改修、及び図書館の大規模改修に係る実施設計の中で反映されているものと考えています。

問 ② 取組項目として建物・設備の省エネルギー化が書かれているが既存電球の製造中止と言われているがそれに対しての対応はどうなっていますか。

答 LEDランプ対応器具以外は、当面、流通在庫での対応となるが、いずれ、在庫はなくなることから、速やかに計画的にLED化は進めていかなければいけないと考えております。

問 ③ 今年も公用車等の省エネルギー化計画の今後の具体化はどのように進みますか。

答 今後も具体的な年次計画は今のところありませんが、計画にあるとおり、公用車の省エネルギー化を進めていくこ

とは必要でありますので燃費性能に優れた、プラグインハイブリッド車等への切り替えを行っていくことで省エネルギー化を図っていければと考えております。

問 ④ 町内では灯油に対する依存度が高いと思われるがそれに対する省エネルギー化対策はどのように考えていますか。

答 まずは公共施設から灯油依存脱却を図り、さまざまな知見を得ていく中で、町全体へ波及していければと考えています。

質問③

類似駅前整備計画について

問 ① 何回かの町民を交えた話し合いがもたれていると聞いているがその後の進展状況はどうなっていますか。

答 駅舎については、現状、現建物を活用しての改修や増築が難しいのであれば、現在の駅舎は解体して建て替える方向で進めるべきではないのかという方向性が出されています。

問 ② 旧駅舎の老朽化が進み、屋根・破風等の腐食、正面看板も見苦しく感じられてきているがそれらの補修は早急に必要と思われるが対策はどうなっているか。

答 議員指摘の通り、屋根周り等を含めて老朽化が進み、強風等が吹けば一部が壊れる可能性があることから、本年度最低限であります。が、風が入らないように、屋根の一部、破風や軒先の一部補修を予定しており、現在事業実施に向けた準備をしているところであります。

問 ③ 階段の手すり・スロープ等の設置はどうなっていますか。

答 旧駅舎整備に合わせて考えていきたい。

問 ④ さわやかトイレの外壁・屋根等の補修はどうなっていますか。

答 類似駅前の整備の考え方が整理された段階で、改めて整備を進めていきたい。現在修理、改修の予定は持っておりません。

社会・文教常任委員会

6/6

◆令和7年度以降の新型コロナウイルスワクチン接種について

令和6年度の接種状況については、令和6年4月1日時点の65歳以上の人口1,654人中260名が接種され、接種15.7%とのことでした。この実績を踏まえ、助成内容の変更とともに、補正予算可決後、接種費用助成実施要項の改正が行われます。

◆生活支援体制整備事業について

平成29年に実施要項を作成し開始された事業で、これまでは職員が兼務で行っていました。しかし、ケアマネジメント業務を優先させている結果、この事業に取り組めていない現状があり、国が推奨する原則通り、今回専任で外部委託し、補正予算を上程するということでした。

コーディネーターとして、

地域単位で、困り事や理想とする地域の姿を話し合い、そこに近づくための仕組みを作り上げることが業務となり、歳出で、委託料として370万円増となります。今年度、生活支援ボランティア養成講座を予定しています。

◆様似福祉会の経営状況について

様似福祉会は、令和3年度から赤字決算が続いています。今後の経営予測についての資料が提供され、現時点ではその分析や聞き取りが続けているとのことでした。しかし、経営的補助については全く考えていない、まだその段階ではない、という町長のお答えだったため、貸借対照表等の資料請求をし、審議を終了しています。

◆えりも町焼却ゴミの受け入れについて

令和6年12月に、焼却施設の故障により、えりも町での焼却業務が停止する事態となりました。以前より、ゴミの受け入れについて協議が進められていたところ、この緊急事態を受け、急遽、試験的に受け入れを開始しましたが、6月1日より本稼働として対応するとのこと。ゴミの量はえりも町の可燃ゴミ量全体の約30～40%、週に約4台のゴミ収集車の搬入となります。

◆様似町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について

計画期間は令和7年度から令和12年度までの6年間で、平成25年度と比較し、令和12年度までに、温室効果ガス50%削減が目標となっています。様似町における事務事業及び公共施設の、省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入・活用を推進します。LED化や公用車の電気自動車への移行等について質問が出ましたが、具体的な計画はまだ持っていないということでした。

座長を副町長、事務局である税務町民課を中心に各課代表課長等で構成された推進会議により推進されます。

◆部活動の地域移行に関するアンケート結果について

調査対象は、小学校5、6年生の児童及び保護者、中学校1、2年生の生徒及び保護者、学校教職員、各スポーツ・文化団体です。結果として、地域移行に関して特に否定的な意見はありませんでしたが、当町単独では難しい状況もあり、直ちに進展は出来ないが、中学校教員の負担軽減については早急に対応していきたいとのことでした。

◆様似町文化・スポーツ大会出場助成金交付要綱について

委員会より要望していた助成金についてですが、今回、教育委員会の助成金交付要綱として定め、施行されることになりました。

助成の幅を広げ、町在住及び町出身の高校生も対象にな

ります。また、小中学生については、町内スポーツ少年団や活動以外でも、助成率は基本的に100%となります。

その他審議した案件

◆様似町税条例の一部を改正する条例の制定に係る専決処分承認について

◆様似町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定に係る専決処分の承認について

◆様似町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について

◇ 今回は、委員会側からの案件はありませんでした。